北栄町議会議長　　前　田　栄　治　　様

北栄町議会　　中井　宏衛

議員派遣結果報告書

1	名　　称	令和８年度中部町議会議員研修会
2	場　　所	湯梨浜町「水明荘」
3	期　　間	令和８年１０月１４日（水）　１日間
4	内容・成果	鳥取県内における有害鳥獣被害の現状と対策 ・平成１６年がピークで、その後は徐々に減少 ・シカの捕獲数は八頭郡を除き増加傾向 ・R7 のイノシシの捕獲数は急に減少。これは里に下りてくるイノシシが減ったからと思われる ・シカの糞塊密度（R4）は東部で高く、中西部も増加傾向 ・イノシシの痕跡密度（R4）は高密度が分散 ・イノシシの子は生後半年までに半数は死んでしまうので、子を捕獲しても個体数の減少には影響は出ない。 ・イノシシ、シカは２m 程度の高さまで口が届く ・ツキノワグマは手で引き寄せた枝葉（果実）や、果実を取り出した袋を、尻の下に敷き、クマ柵ができる ・クマの糞は食べた物により違う ・クマの爪痕はシカの角とぎ痕と間違えやすい ・ニホンザルは島根から米子に渡っている ・主な中型加害獣は、アナグマ、テン、キツネ、ヌートリア、アライグマ、ハクビシンである ・被害が増えた原因は里山の放置である ・野生鳥獣の隠れ場・通り道は藪や竹林 ・餌資源は農作残渣や生ゴミ ・鳥獣害対策の基本は、集落・人・農村環境を変えること ・　〃　の３つの基本は ①農地に入らせない「侵入を防ぐ対策」…加害動物により対策は異なる。設置方法の間違いや管理不足により柵の効果は減少する。 ②集落・農地に引き寄せない「集落環境を改善する対策」…果実などを放置しない、隠れ場所をなくす ③緊張関係を保つ「捕獲・追い払い対策」 ・野生動物は栄養状態が悪いと生存率（特に子）が低下 ・侵入防止柵 種類 物理柵…高さや強度で侵入防止（ワイヤーメッシュ柵、金網柵、ネット柵等）

		心理柵…痛みによる忌避効果で侵入防止（電気柵） ・鳥獣別侵入防止対策 イノシシ…電気柵、ワイヤーメッシュ柵 シカ…電気柵、ワイヤーメッシュ柵 クマ…電気柵 カラス…防鳥ネット、テグス ・電気柵の注意事項 電源から直接電気を流さない 市販の電牧器を使用する 電牧器を自作しない ２４時間通電させる 電線に草が触れると漏電する アスファルトは電気を通しにくい ・柵は動物目線で設置場所を考える ・捕獲の意義 動物との緊張関係を保つ 個体数管理 ・誤った対策を行ってしまう原因 正確な情報がない 「このくらいなら…」という油断 人の都合（農作業等）を優先 ・カラスの捕獲・追い払い対策実施の留意点 減らす有効な方法は「捕獲」ではなく「餌を断つ」こと 音だけでは慣れてしまう。仲間が殺されることで刺激になる（緊張関係を保つ） ・捕獲は原則、禁止（鳥獣法第８条） 市町村長等の許可（有害鳥獣捕獲） 狩猟鳥獣の捕獲（狩猟期に狩猟者登録を行う） 農林業に伴うモグラ、ネズミの駆除（第１３条） 鳥獣保護法の対象外…ドブネズミ等

提出期限　　令和８年１０月２３日